

寄合い(ワークショップ)開催報告と結果分析

寄合い開催報告

1 寄合い(ワークショップ)の開催概要

平成21年12月上旬から中旬にかけて、宮崎県臼杵郡椎葉村及び鹿児島県大島郡瀬戸内町にて「集落元気づくり」のための寄合い(第2回)を開催した。

「集落元気づくり」のための事前基礎調査

集落の現況を把握するための住民・他出者基礎調査(お盆・旧盆)

H21年8月13日～14日 瀧春山集落(椎葉村) 住民13名 世帯数7世帯 他出14名

H21年9月2日～4日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民5名 世帯数5世帯 他出5名

H21年9月2日～4日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民12名 世帯数6世帯 他出6名



活用する資源・解消する不安の設定(枯れた松の植え換え)

第1回寄合い 現状の問題を見てみよう

世帯毎の家族構成・後継者(他出者含む)や集落の資源を把握することで集落の現状を共有

平成21年10月13日 瀧春山集落(椎葉村) 住民7名6世帯 他出1名 周辺集落1名

平成21年10月17日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民7名6世帯 他出3名

平成21年10月18日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民10名7世帯 他出6名 周辺集落3名



支援者も含め取組の内容・方法の話し合い

平成21年12月上旬から中旬にかけて開催

第2回寄合い 集落の将来について考えてみよう

将来の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合い

平成21年12月7日(月) 瀧春山集落(椎葉村) 住民7名6世帯 周辺集落1名

平成21年12月12日(土) 知之浦集落(瀬戸内町) 住民6名5世帯 他出者5名 周辺集落1名

平成21年12月13日(日) 阿多地集落(瀬戸内町) 住民5名4世帯 他出者3名



取組の実践(「集落元気づくり」)

「集落元気づくり」とは、集落の暮らしにおける不安解消・資源活用を図るため、寄合い(ワークショップ)とその取組を呼ぶ

1 寄合い(ワークショップ)の開催対象集落の概要

寄合い対象集落の概要

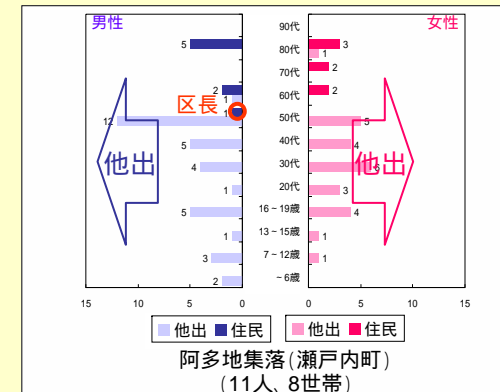
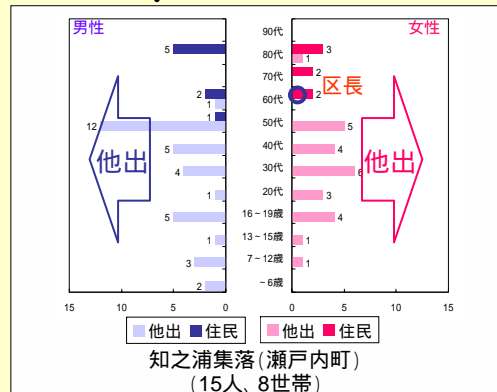
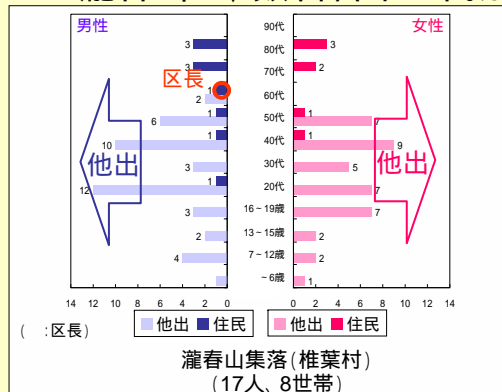
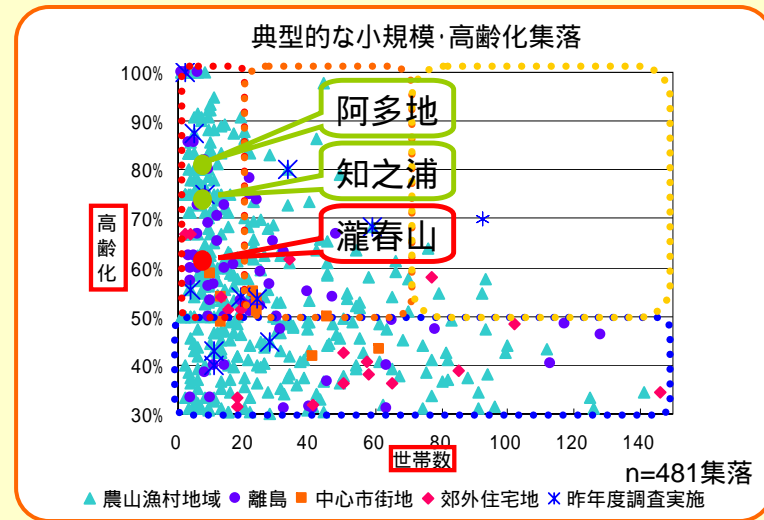
対象集落の位置付け

世帯規模・高齢化実態から、「集落元気づくり」への取組において、外部からの支援が必要であると思われる、**特に厳しい条件にある集落を中山間地及び離島から3集落を抽出した。**(第1回委員会)

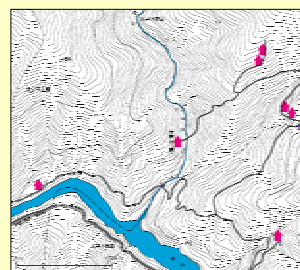
対象集落の人口構成

いずれの集落においても、**区長が50～60歳であり、集落人口の最年少の年代にあり、若年世帯の多くが他出している。**

瀧春山は、数名若年世代が居住していた。

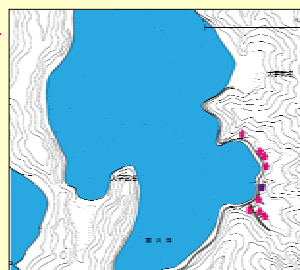


対象集落の地形



瀧春山集落(椎葉村)
(散居型)

役場までの時間
距離: 50分
居住者の集会所
までの歩行時間
: 最長30分



知之浦集落(瀬戸内町)
(密集型)

役場までの時間
距離: 30分
居住者の集会所
までの歩行時間
: 最長5分



阿多地集落(瀬戸内町)
(密集型)

役場までの時間
距離: 60分
居住者の集会所
までの歩行時間
: 最長5分

2 寄合い開催報告(第0段階)

【第0段階】事前準備(参加の場の創出)

集落世帯毎の対面調査



集落の実態や住民意向や「集落元気づくり」の担い手(キーマン)を把握するため世帯毎に訪問調査を行った。

調査に気軽に答えていただける雰囲気をつくる(阿多地集落)

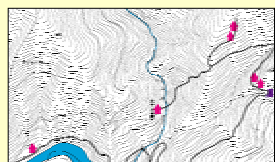
効果

他出者の動向を把握するため、お盆の時期に訪問調査を行うことにより、他出者の帰省動向や「集落元気づくり」の担い手を把握出来た。
全世帯・全住民を対象とした他、他出された家族の他出先住所も教えていただき、他出者アンケートが実施できた。

留意点

外部支援者を集落に受け入れてもらうための信頼関係づくり

現地調査(区長聞取調査含む)



集会所まで徒歩30分の世帯もある(瀧春山集落)



よそ者の視点から集落資源を評価する(瀧春山集落)

集落の地理的特徴、集落資源や不安について把握するための現地調査及び自治体・区長へ聞き取り調査を実施した

効果

寄合い(WS)を開催する準備として、送迎の必要性や主な交通手段を把握し、寄合いへの参加者を確保した。
外部者から見た魅力的な資源や集落生活を見た上での不安を調査し、伝えることで、集落住民の資源の再認識につながった。
集落の家屋の配置が密集型か散居型か把握できたほか、集落で定期的に行われている寄合いの頻度が確認できた。

留意点

集落の資源や不安を明らかにする

集落支援団体の意向把握



他出者団体の意向把握(知之浦・阿多地集落合同)

集落支援者と想定される他出者団体、周辺集落のキーマンを把握した。

周辺集落と連携した取組実態を把握する。(集落行事が既に統合されて実施されている場合もあるため)



周辺集落合同での運動会(阿多地集落)



周辺集落(三浦)代表者も参加の寄合い(知之浦集落)

効果

集落居住者以外にも、定期的に集落を訪れ、集落維持に係わる取組を行っている他出者団体の活動実態(年一度の親睦会を開催等)を詳細に把握できたほか、他出者団体に「集落元気づくり」のための寄合いへ参加していただけた。
周辺集落の代表者にとっても同様な悩みを感じていることが多いため、寄合いへの参加を通じ、その悩みを共有し、お互いの連携が深まる可能性が確認できた。


留意点

集落の支援者(他出者及び周辺集落)を把握

2 寄合い開催報告(第1段階～第2段階)

【第1段階】気付きの誘発(第1回寄合い)

寄合いの場づくり(雰囲気づくり)



町職員兼他出者のI氏 発言のしやすさに留意し、地元自治体、周辺集落代表者、他出者にも話し合いに参加していただいた

思い出話で盛り上がる寄合い 高齢者の発言を引き出すため、昔の思い出話から集落資源を導き出した

高齢者へはイスの手配 長時間の寄り合いにおいて高齢者の方にも話し合いに参加できるような配慮を行った(椅子の手配、代筆者の手配)

効果

「集落元気づくり」への取組において、住民は他出者の支援意識に気づき、期待が高まった。また、他出者も住民の支援要望を認識できた。集落が元気であった頃の行事等を回顧していただくことで、集落の伝統行事や習慣が若年世帯へも伝えられた

留意点

外部者の視点も交え、集落の資源と不安の情報を共有する。住民が普段気がつかない資源と不安に気づききっかけ作り

【第2段階】「集落元気づくり」の方向性(第2回寄合い)

先行事例の紹介による情報の提供

話し合いの流れの中で必要に応じて先行事例を紹介し、新たなアイデア(気づき)を提供

瀧春山

知之浦

阿多地



やぶ椿が6000本自生する宗像市地島の事例紹介 同じ問題を持っている集落から学ぶ

三浦集落での活動内容を説明する三浦集落のH氏 隣の集落でやっていることを聞く

楽しかった集落の思い出話をする他出者のK氏 昔を回顧することで気づき

効果

話し合いの中で閉塞感が出始めた段階で、テーマに応じた取組事例を紹介し、具体的な取組イメージを共有や新たな気づきを促すことで、取組の具体性や取組意欲が向上した。全く異なる場所の先行事例の提示のみならず、隣村や隣の集落で身近で行われている事例の紹介でも、効果が見られた。また、昔の回顧により、参加者の思いが共有化され、取組意欲の向上につながったケースも見られた

留意点

集落の身近な資源の活用方法について先行事例等を用いてアイデア提案を実施する。集落で活用可能な資源と取組内容・方法について考える

2 寄合い開催報告(第2段階～第3段階)

【第2段階】「集落元気づくり」の方向性

【第3段階】自ら実行する意志

瀧春山 「的の狙いは人のつながり」
 ~春祭りの復活~
 周辺集落と連携して祭を復活させ、集落を
 元気にすること



昔的射に
使われていた的



今は使われていない
集会所の活用

今後の展開 周辺集落との祭の共同開催において、話し合いの場をどのように持てるか

瀧春山 「瀧のしずくで集落づくり」
 ~無人販売所の活用~
 無人販売所を活用し、新たな
 集落特産品を開発する



無人販売所の販売



瀧春山の周辺が
樽で彩られる



椎葉の特産品で
人気のハチミツ

今後の展開 個々人で樽を植栽するのではなく、集落の入り口等の共有地において、皆で話し合い、集落行事として取り組めるか

知之浦 「みんなの応援でこぎつづけよう知之浦号」
 ~住民・他出者による
 船こぎレースへの参加~
 船こぎレースで常勝だった「チーム
 知之浦」の復活



みなと祭の船こぎ
レースに参加する



集落前の海で
船こぎの練習

今後の展開 船のこぎ手の多くが他出者のため、他出者主導での活動をうまく集落住民の意欲へと結びつけられるか

知之浦 「楽しみながら、子どもも一緒にお手伝い」
 ~知之浦・愛着づくりへ~
 集落維持活動への他出者の参加と
 集落のシンボルであった松山への植樹



枯れたシンボルの松



移植候補のディゴの木

今後の展開 集落のシンボルの植樹において、今後集落だけでなく他出者団体(子供も含め)

阿多地 「きゅら浜阿多地楽しみ会」
 ~海を活かした他出者との交流~
 加計呂麻で最も美しいと言われる海と集
 落内の空家・集会所を活かした集落づくり



阿多地集落前の海



集会所を活用した短期
滞在プログラムの考案

今後の展開 まずは古仁屋の他出者との交流において、「集落元気づくり」への取組が持続出来るか

阿多地 「内も外も、みんなが顔をあわせるプロジェクト」
 ~集落内外の人が自然に集まる空間の創出~
 日々の生活の中で、お互いの安否が確認できる仕組み作り



自然と集まりたくなる
空間の整備

今後の展開 集落を訪れる他出者を、今後気軽もてなし、集落みんなが集まる場を創り出せるか

留意点 実現性の高い元気づくりの取組プロセスを示す

2 寄り合い開催報告(第3段階)

【第3段階】自ら実行する意志(話し合いをリードするキーマン)

区長とキーマンの連携強化と取組意欲

参加者(支援者)が話し合いの中で自分の役割を認識し、取組意欲に結びつくためのグループ分けを行った。

瀧春山



周辺4集落で形成する
尾八重区代表

祭を通じて周辺集
落との連携強化

知之浦



郷友会所属の集落出身
者の若手の中心人物

他出者とイベントへ
の協働参加

阿多地



他出者団体をまとめ、
集落維持活動

集落への他出者の
受け入れ行事開催

効果

テーマ別にその中心的な役割を果たす「キーマン」をグループ毎に配置し、その取組意欲を喚起することで、話し合いの実効性が増した。
住民と他出者及び周辺集落の話し合いにより、お互いの悩みが共有化され、集落への支援意欲が増した。

留意点

集落の活動可能な体制(他出者や周辺集落も含める)における役割分担を決める。

寄合い開催後の状況

1 寄合い開催後の動向

住民の取組開始に向けた一歩

寄合い開催後において、立案された取組実施に向けた取組への「きっかけ」がつかめているかを確認した。

瀧春山 支援者との話合いのきっかけがつかめず



寄合いにて、新たな気づきもあり、取組意欲はわいた
今後、周辺集落の支援が必要であるが、話合いの場のきっかけがつかめていない

特に椿の植栽に意欲的なK氏
(瀧春山区長)

集落支援者との合意形成・役割分担

寄合い開催において、集落代表者と支援者の信頼関係の構築と取組への役割分担は図られたか

他出者・周辺集落との合意形成が必要



6年間寄合いが開催されていなかった。(集落内合意が取りにくい)
祭の共同開催に向けては、尾八重以外の集落の合意も必要
集落が散居型であり、お互い顔を合わせることが少ない

知之浦 周辺集落との連携に向けた話合い開始



他出者とは船こぎレースへの参加イベントで連携し、集落維持活動は周辺集落と交流を深めていく予定
集落の景観づくり(植栽)は他出者からも意見を聞きたい

周辺集落との集落維持活動共催を考えるT氏(知之浦区長)

他出者・周辺集落と取組を具体化させ実行



他出者団体・周辺集落の寄合いの参加により、集落の問題が共有化された
取組実現のための支援者に期待される役割が明確になった
集落が密集型であり、お互い顔を合わせることが多い

阿多地 郷友会(他出者の会)には参加予定



今回の寄合いを契機に集落(区長)と郷友会の連携が強化され、相談しやすくなった。

集会所の短期滞在利用を積極的に進めたいIN氏(阿多地区長)

他出者と集落の関わりを増やしながら取組を具体化



他出者団体の中心人物の寄合い参加により、区長が相談しやすくなった
取組実現のため、集落と支援者の意思疎通が寄合いで図られた
集落が密集型であり、お互い顔を合わせることが多い

寄合い整理

寄合いを開催した結果について、3集落の条件を比較し、今後の展開における課題について考察を行った。

		瀧春山 (宮崎県椎葉村)	知之浦 (鹿児島県瀬戸内町)	阿多地 (鹿児島県瀬戸内町)
状況	集落の状況	10年前2集落が合併 (瀧と春山)	集落内にあった真珠養殖場が 撤退	空き家に「ターナー」を受け入れ ている
	世帯数	8世帯	8世帯	8世帯
	高齢化	62.2%	75.0%	81.8%
地理的特性	地理的特性	山間地	離島(内海に面する)	離島(外洋に面する)
	住居配置	散居型	密集型	密集型
	集会所までの時間	30分 (徒歩)	5分(徒歩)	5分(徒歩)
	役場までの時間	50分(バス)	30分(渡船利用)	60分(バス～渡船利用)
集落活動	寄合いの開催状況	共同作業なし 6年間寄合いの開催なし	集落行事を実施 (豊年祭や集落維持活動) 寄合いを定期的で開催	集落行事を実施 (豊年祭や集落維持活動) 寄合いを定期的で開催
外部支援者	他出者団体の有無	なし	あり (古仁屋・名瀬・関西)	あり (古仁屋・名瀬・関西)
寄合いの状況	参加者 (集落住民以外)	他出者の参加なし (第2回寄合い)	他出者の参加あり 周辺集落住民の参加あり	他出者の参加あり
考察		継続(寄合い)	取組を見守る	取組を見守る
		集落の住居配置が散居型であり、住民がお互いに顔を合わせる機会が少ない。また、近隣居住の他出者の寄合い参加が第2回寄合いになく、問題認識の共有化が困難であった。	集落の住居配置が密集型であり、お互いに顔を合わせることが多い。また、支援を期待できる他出者団体及び周辺集落住民の中心人物が寄合いに参加し、取組方針の共有化が図られた。	集落の住居配置が密集型であり、お互いに顔を合わせることが多い。また、支援を期待できる他出者団体の中心人物が寄合いに参加してことで、取組に向けた信頼関係が構築された

寄合いの結果分析

「集落元気づくり」のための寄合いの結果分析

本調査において実施した特に厳しい条件にある3集落の寄合いの実施項目と得られた留意点と各段階のポイントについて整理した。条件が厳しい集落では、支援者との関わりが不可欠であり、支援者との話し合いの過程で信頼関係を構築させ、「集落元気づくり」の取組実現につなげることが求められる。

「集落元気づくり」のための寄合いの実施項目と得られた課題と効果の整理

